平成２６年度教育事業　主体性・社会性をはぐくむ幼児キャンプ

「大自然に“い～っぽ”」

１　趣旨

　自然を介した学びの場で、幼児の自立心や協調性、感性を育む。また、日常の子育てにつなげられるように、実習や講義を通して幼児期における自然体験活動の意義について保護者の理解を深める。

２　主催

独立行政法人　国立青少年教育機構　国立花山青少年自然の家

３　協力

宮城県志津川自然の家

４　後援

宮城県教育委員会、栗原市教育委員会

５　期日

（１）日帰りプレキャンプ

　　平成２６年　８月３０日（土）

（２）本キャンプ

　　平成２６年　９月１３日（土）～　１５日（月・祝）

６　参加対象と人数

幼稚園・保育園年中・年長児　２０名　と　その保護者

７　参加状況

（１）日帰りプレキャンプ

	宮城県		岩手県		計
	男	女	男	女	
幼児	６	１２	１	０	１９
保護者	１１	９	０	１	２１
その他	３	１	０	０	４
計	２０	２２	１	１	４４

（２）本キャンプ

	宮城県		岩手県		計
	男	女	男	女	
幼児	６	１２	１	０	１９
保護者	１１	１２	０	１	２４
その他	３	７	０	０	１０
計	２０	３１	１	１	５３

８　日程

（１）日帰りプレキャンプ

	８月３０日（土）	
	子どもプログラム	保護者プログラム
午前	10：00　参加者受付 10：15　『はじまりの会』 10：45　『沢遊び（沢①）』 12：00　昼食	
午後	13：00　『読み聞かせ』 『みんなでゲーム』 『自由遊び』	『子育て座談会』 講師：山崎　裕　氏 話題：「くさやぶが育む感性」
	14：30　『おやつタイム』 15：15　『おわりの会』	

（２）本キャンプ

	９月１３日（土）	
午前	子どもプログラム	保護者プログラム
	12:30　参加者受付	
午後	13:00　『はじまりの会』 13:30　『森の自由遊び』 15:30　『うどん作り①』 16:00　『寝床づくり』 16:30　『うどん作り②』 18:00　『夕食：手打ちうどん』	子どもとおわかれ （希望者は本館へ宿泊、翌日 11:30 本館集合）
夜	19:00　『シャワータイム』 19:30　『就寝準備・絵本読み聞かせ』 20:00　『就寝』	

	９月１４日（日）	
	子どもプログラム	保護者プログラム
午前	6:30　『起床・洗面』 7:00　『朝のつどい：健康観察、体操』 7:15　『朝食：手作りサンドウィッチ』 9:00　『出発準備』 9:30　『森のお買い物』 11:00　『昼食：おにぎりべんとう』 12:00　『沢遊び（沢②）』	11:30　『受付･集合』 12:00　『昼食』『森林科学館見学』
午後	14:30　『フリータイム』 『入浴：ドラム缶風呂』 16:00　『流しそうめん準備』 17:00　『夕食：流しそうめん』	13:00　『ノルディックウォーク』 15:30　『温泉入浴』
夜	17:30　『焚き火：マッチ・線香花火』 19:00　『就寝準備・絵本読み聞かせ』 20:00　『就寝』	18:00　『バーベキュー：子育て懇親会』 22:00　『就寝』

	９月１５日（月）	
	子どもプログラム	保護者プログラム
午前	6:30　『起床・洗面』 7:00　『朝のつどい：健康観察、体操』 7:15　『朝食：手作りサンドウィッチ』 8:30　『片付け・荷物整理』 9:30　『カレーパーティー準備』 11:00　『フリータイム』	6:30　『起床・洗面』 7:30　『朝食』 8:30　『荷物整理・退所点検』 9:30　『こども植物形態学入門 ～答えは自然の中にある～』 講師：山崎　裕　氏 12:00　『キャンプ場へ移動』
午後	12:30　『親子カレーパーティー』 『写真上映：三日間のぼくたちわたしたち』 14:00　『おわかれの会』	

9　実施状況

〔日帰りプレキャンプ〕

◇　親子共通プログラム『はじまりの会』～『沢遊び（沢①)』

・　開講式の後、ライフジャケットを身に付け、砥沢での親子沢遊びを行った。沢遊びは、本キャンプでも予定している活動である。

◇子どもプログラム『読み聞かせ』～『みんなでゲーム』～『キャンプ場での自由遊び』

・読み聞かせと集団ゲームを行った後、キャンプ場で草木に触れたり、小動物をつかまえたり、ロープやハンモックを使って自由に遊んだりした。それらの活動を観察して、本キャンプに向けて子どもの実態を把握した。

◇親プログラム『子育て座談会~くさやぶが育む感性~』～『閉講式』
・講師に山﨑裕氏を迎え、自然体験と子どもの成長への関わりについての座談会を開いた。
その後、閉講式の中でボランティアから次のキャンプの招待状を一人一人に手渡した。

〔2 泊 3 日　本キャンプ：子どもプログラム〕
【１日目】◇『はじまりの会』～『森の自由遊び』
・　はじまりの会のあと、保護者と別れてふれあいの森へ移動した。木登りをしたり、自然物を拾ったり、小動物を捕まえたりして遊んだ。プレキャンプでできた友だちと再会し、関わりを持ちながら楽しく遊んだ。アドバイザーとして山﨑裕氏にもキャンプに参加していただき、動植物の疑問に的確に答えることで子どもの興味関心をより自然に向かうようにした。

◇『うどん作り①②』～『寝床づくり』～『夕食：手打ちうどん』

・うどん粉に水を入れてグループごとに手もみした。練ったうどん粉を寝かせる間に寝床の準備を行った。寝床の準備を終えたあと、うどん粉を取り出し、手で練ったり、足で踏んだりした。麺棒でのばして切ったあと、暖かいつゆをかけて夕食とした。時間はかかったが、自分たちの作ったうどんのおいしさにたくさんおかわりする子どもがいた。

◇『就寝準備・絵本読み聞かせ』～『就寝』

・焚き火の予定だったが、夕食のうどん作りに時間がかかったために変更した。無理することなくゆとりを持って就寝準備に入ることができ、落ち着いて眠ることができた。

【２日目】◇『朝のつどい』～『朝食：サンドウィッチ』

・朝のつどいで健康観察、体操を行った後、朝食では自分で作ったサンドウィッチを食べた。食後の後片付けも自分たちで行った。

◇『森のお買い物』～『沢遊び（沢②）』

・本施設のあなぐまコースを使って、森の中のお店（炊事場）でお弁当とおやつを買う活動を取り入れた。自分で買ったお弁当をみんなで食べた後、楽しみにしていた沢遊びを行った。プレキャンプで楽しんだ活動であるため、子ども達は沢の活動を怖がることなく思いっきり楽しむことができた。

◇『フリータイム』～『入浴：ドラム缶風呂』

・子ども達に自由時間をとった。木登りやターザンロープ、虫捕りなど思い思いの時間を過ごした。その後、ドラム缶のお風呂に入った。自然の中での入浴に、気持ちいいという子ども達の歓声が上がった。

◇『流しそうめん準備』～『夕食：流しそうめん』

・流しそうめんに流す「なると」「ちくわ」「きゅうり」を子ども達が切り、夕食準備を行った。他にもうずらの卵、トマト、みかんなども流し、箸使いに苦戦しながらも楽しく夕食の流しそうめんを食べることができた。

◇『焚き火：マッチ・線香花火』～『就寝』

・マッチを使ってキャンドルに火を着ける体験をした。初めてマッチを使う子どもたちが多く、おっかなびっくりの様子だった。その後、自分の着けた火で線香花火を楽しんだ。中央に焚き火をつくり、火の温かさ、幻想的な時間をみんなで共有した。盛りだくさんな一日のため疲れもあったのか、落ち着いてぐっすり眠りに着くことができた。

【３日目】◇『朝のつどい』～『朝食：サンドウィッチ』～『片付け、荷物整理』

・朝食は昨日と同じサンドウィッチとした。自分たちで上手に後片付けを行い、その後、最終日の荷物整理を行った。できるだけ自分たちの力でできるように長く時間をとった。

◇子どもプログラム『カレーパーティー準備』～『親子カレーパーティー』

・後片付けが終わった後、子ども達とカレー作りを行った。親子の再会では、思わず涙を流す保護者もいた。子ども達が準備したカレーを食べながら、子どもの活動の様子をスライド上映し、三日間のふりかえりの時間とした。

〔１泊２日　本キャンプ：親プログラム〕

【１日目】◇親プログラム『ノルディックウォーク』～『温泉入浴』

・子ども達のキャンプ２日目に本館集合。花山地区内を使ったノルディックウォークに挑戦した。講師のウォーキング指導を受けた後、花山の歴史なども交えながら約１時間半のウォーキングに挑戦した。汗を流した後は疲れを癒し、花山の温泉に入浴した。

◇親プログラム『バーベキュー：子育て懇親会』

・保護者が積極的にバーベキューの準備をした。火を見つめながら子育てについて情報交換を行い、交流を深めた。

【２日目】◇『こども植物形態学入門～答えは自然の中にある』

・講師に山﨑裕氏を迎え、身の回りにある植物の観察スケッチを行った。身近な植物一つ一つが持つ形態に驚きを感じることができた。

〔親子共通プログラム〕◇『おわかれの会』

・おわかれの会では修了の証として一人一人のがんばりを記録した「い～っぽノート」を手渡し、金メダルを首にかけた。子ども達に深く関わったボランティアから三日間のがんばりを伝え、温かい気持ちで帰路についてもらった。

10　成果と課題

①　成果

・昨年度の反省を活かしながらプログラムを組み立てることで活動にゆとりが生まれ、子ども達に十分な自然体験を提供することができた。

・保護者からの追跡アンケートには、自然への関わり方が積極的になった、自分に自信がついてきた、主体性が出てきたなど、プラスの方向にキャンプの影響が出ているという意見が多くあった。

・大学から動植物の専門家に来所いただいたことで、子ども達、保護者の知的欲求に応えることができ、自然体験への興味関心をより高め、自然体験の意義について理解を促すことができた。

・子ども達、保護者の満足度も高く、本事業、施設への期待を高めることができた。

②　課題

・自主性、自立を促す面で、スタッフやボランティアがどの程度まで子どもに関わるのか、どこまで子どもにさせるのかを事前によく吟味し、共通理解を図る必要がある。

・自然体験と子どもの自立に関して明確にするならば、今後の追跡調査、同年代の幼児の調査を比較することが必要である。

11　参加者からの感想（一部抜粋）

・今回初めて娘と離れて、今までの子育てやこれからの子育てについていろいろ考えることができました。以前と少しですが、関わり方が変わってきました。

・本人にとって親と離れて２泊もしたことはものすごい自信につながったと思います。これからもこの事業を続けていってほしいと思います。ありがとうございました。